とっとーと通信は平川の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。当然ですが無料です。

とっとーと通信

2024年2月16日発行
251号

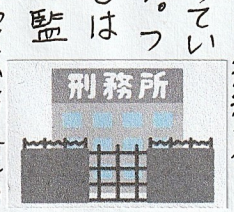
「とっとーと通信」は略してとっつう。いつも読んでいただきありがとうございます。

こんにちは！平川です。寒さの中に春を感じる時期になりました。お変わりありませんか。さて今年も糸島三都110キロウォークを開催します。5月11日、12日です。詳しくはメールにリンクを貼っています。興味のある方はご覧下さい。では今月もはりきっていきましょう。

エンディングを意識することで今が輝く

先月号で「今を生きる」というお話を書きました。似た言葉に「一日一生」があります。今日一日を悔いのないよう人生最後の日だと思って生きる。その連続が充実した一生につながる。という意味ですが、この実践がまた難しいのです。ボーっと過ごしてしまう日も少なくありません。ではどうすればいいのでしょう。そこで「これでいい」と心から思える生き方という本から、「科学と宗教と死」(著者、加賀乙彦氏)の一節をご紹介します。

ここに2つのグループがあります。一つは死刑にされることが決まっていて、拘置所に入っている死刑囚のグループ。つまり死刑執行日がいつなのかは分からないけど、とにかく死刑が決まっている人たちです。もう一つは終身刑によって一生を刑務所で過ごすことが決まっている無期囚のグループ。つまり死刑になることはないが、一生刑務所に監禁されることが決まっている人たちです。この2つのグループを比較調査した結果が書いてありました。調査によると、前者の死刑囚は、活発で動きが多く、冗談を言ったり、歌ったり、笑ったりと、心の躍動感が大きかったらしいです。一方、後者の無期囚は、イキイキとした感じはなく、ぼんやりとした鈍感な感じで、心の躍動感が小さかったらしいです。そこで質問です。死刑囚への死刑執行は、いつ本人に伝えられるかご存知ですか。当日の朝突然言い渡されます。想像してみて下さい。本を読んでいても、手紙を書いていても、部屋を掃除していても、突然看守が現れ、すべて途中で止められます。そして有無を言わせず両脇をかかえ連れていかれ、即死刑執行されるのです。心の準備ができる時間なんてありません。恐ろしいと思いませんか。よって死刑囚がもっとも恐れる時間帯は、平日の朝だとネットに書いてありました。毎日「明日、死ぬかもしれない」と思って生きているわけです。一方、無期囚の方は、死刑にされる心配はありません。最初は変化のない退屈な毎日に苦痛を感じるそうですが、やがてそれに慣れてしまいます。つまり感情を麻痺させ、感情の動きを小さくさせることで、退屈を退屈だと思わなくなるそうです。そこで著者の加賀さんは次のように述べています。



「私たちはいずれ誰もが死ぬ。確実に死を宣告されています。それは今日かもしれない。明日かもしれない。そういう意味では死刑確定者と同じです。(中略)けれども、そのことを死刑囚ほど常にはっきりと、せっぱつまって感じている人は、あまり多くないでしょう。いつかは自分も死ぬ、けれどもまだそれは少し先のことだと感じている人が多いでしょう。そう考えれば、人間は無期囚に似ているのかもしれません」私、これを読んでドキッとしました。もし私が死刑囚で監禁中だったら、きっと一日を悔いの無いように生きるだろうな。と思ったのです。でもですね、よく考えたら、私も死刑囚と同じなのです。堀の外か中にいるかの違いだけで、いつ死ぬか分からないという事実は何も変わらないのです。それなのに自分が死ぬことがリアルに想像出来ない。いや大病にかかる、もしくは、戦争にでも行かない限り、一生分からないかもしれません。普段から死に触れる機会がほとんど無いので、仕方のないことです。では今出来ることは何でしょう。仕事にしろ、遊びにしろ、家族と過ごす時間にしろ、目の前の事に集中して、今この瞬間をもっと楽しもう。と思った次第です。なんだか小難しい話になってしまいました。ではまた来月に。

「これでいい」と心から思える生き方
野口嘉則氏(著)

発行／有限会社アサム 平川雅樹
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel:092-321-4001 Fax:092-321-4002
・伊都倫理法人会ブログ : https://itorinri.com/

ご感想や楽しいメッセージをお待ちしています。 メール：hirakawa@asam.jp FAX：092-321-4002